

砂鉄川 災害復旧事業

住民参加の川づくり竣工

平成14年の台風6号の大雨で甚大な被害を受けた東山町の砂鉄川災害復旧事業が竣工しました。

県・市の関係者をはじめ地権者や市民ら約200人が出席して、狛鼻溪河川敷で竣工式が催されました。

式では、主催者を代表し宮館壽喜若手県副知事が「洪水を防ぐのはもちろん地域に愛される清流となるよう河川管理者として努力していく」と式辞を述べました。浅井市長は「地域住民待望の事業が竣工し市としても関係者に感謝したい。地域の皆さんが災害のない安全で安心な生活を送ることができることを祈念する」と祝辞を寄せました。

また、げいび幼稚園児と保護者ら約60人が清流化に向けヤマメの稚魚を放流。竣工記念事業実行委員会では記念碑を建立し、除幕式を行いました。

平成14年の災害は、1時間あたりの雨量が最大37ミ、降り始めから35時間で約200ミの豪雨を観測。河川を越えた雨水が市街地や農地に流入。はららん、床上浸水(住家743棟、床下

浸水(住家)222棟、浸水面積529畝、1178世帯3152人が避難する未曾有の被害でした。

このため、旧町村、県、国が連携し一貫した砂鉄川緊急治水対策事業を実施。県では河川激甚災害対策特別緊急事業と河川等災害関連事業(約94億円)を実施。東山町長坂から松川地内までの延長4360畝の区間と支流と

なる山谷川、猿沢川を含め、河道掘削67万立方(20トコンテナで約1万個分)、護岸工9万1000平方(サッカーコート約11面分)、橋りよう4基の整備で十二木橋の架け替えなどの災害復旧工事が施工されました。

また、事業実施にあたっては、住民参加の川づくりとして、懇談会やワークショップなど4年間で36回の会合が持たれ、地域

住民の意見を大きく反映した「ふるさとに集い安らぐ清流砂鉄川」の整備が行われました。

砂鉄川ガイド

大東町大原上内野地区を源流とし、東山町中心部を経て川崎町薄衣地内で北上川と合流する延長約45キロメートルの北上川水系の一級河川で岩手県南を代表する清流。途中に国の名勝「狛鼻溪」がある。アユ釣りができる川としても有名。上流の大東町下内野自治会では、環境保全を目的にカジカの放流や石磨き大会を開催。地域資源としての活用も図られている。河川整備は、下流域について、旧川崎村当時の平成元年から10年度まで一般河川改修事業として63億円が投入された。10年8月の北上川からの逆流などによる洪水被害を受け、11年から16年まで、国直轄で床上浸水対策特別緊急事業(256億円)が実施された。



竣工を祝ってテープカットを行う関係者

平成14年7月11日に襲来した台風6号が、旧東山町、旧川崎村を中心とする砂鉄川流域に大きな災害をもたらしたことは、記憶に新しいところ。

あれからちょうど7年の歳月が経過した7月11日、砂鉄川災害復旧事業の全部が終了。国・



被災直後の東山町内(上)と災害復旧事業竣工後の様子

一関北上線 舞川工区

北上川の一関遊水地の冠水対策道路改築事業として県が実施していた主要地方道一関北上線舞川工区(バイパス部)が開通しました。

バイパスは、現道の東方、山側の高い位置に造られたことから、これまで冠水のたびに通行止めを余儀なくされ、物流や通勤・通学、患者輸送などの生活課題が一気に解消されました。

開通式は7月5日、舞川地内



竣工を祝って記念碑を除幕する関係者

大東町大原の藤ヶ崎地区で実施していた県営農地環境整備事業が完工し7月5日、現地記念碑の除幕式が催されました。同事業は、16・7畝の面的整備工事では場の区画整理11・1畝と農作業道3987畝および用排水路5591畝の築造を行うため、平成14年に県営事業として採択され、16年10月に起工、

大東町大原 藤ヶ崎地区

農地環境整備事業が完工

21年3月の完工まで、7年余りの歳月と約2億7000万円の事業費を投入して農業生産基盤の整備が図られました。

同地区完工祝賀会実行委員会の藤原勝志実行委員長は「おかげさまで、おかげさまで『美生藤郷』の碑名のとおり、地域の財産となる見違えるような立派で美しい農地を作りあげていただいた。」と祝辞を寄せました。

の蓬田橋近くで催され、事業関係者や地域住民ら約100人が出席。浅井市長は「災害時でも安心して通ることができ、地域の生活の利便性が向上する。関係各位に感謝したい」と祝辞を述べました。式終了後は、地元2家族が蓬田橋の3代渡り初めを行い開通を祝いました。

また、今回の開通に併せて、蓬田橋のもとに地元で伝わる日本刀の源流とされている「舞草

刀」の顕彰碑が建てられ、序幕式が行われました。

冠水対策事業は、一般県道薄衣舞川線の千歳トンネルから平泉町下平までの4430畝の区間で、平成9年に起工した薄衣舞川線の2000畝は開通済。接続する一関北上線の2150畝が今回、開通しました。事業は平泉町分の280畝を残していますが、21年度内完成の見込みです。総事業費は約102億円です。



写真資料Ⅱ開通を祝って行われた3代渡り初め(上)、一関北上線開通整備区間(右)



多角的経営と効率的な農業を目指す、新しい藤ヶ崎地区の農業を確立させたい」とあいさつ。坂本副市長は「中山間地の多い当市にとって、この事業完工は今後の師表になる。他の模範となる営農体系を構築して、すばらしい景観を守り育て、豊かな地域づくりにまい進してほしい」と祝辞を寄せました。

同地区は、室根山ろく西側に広がる典型的な中山間地。多くの水田が区画が小さく不整形で、農業機械の移動に多くの労力を費やすなど耕作条件は劣悪。たこと荒廃農地が見られるようになり、農地環境整備が待たれていました。